

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0270700164
法人名	社会福祉法人常光会
事業所名	グループホームひばり苑
所在地 (電話番号)	〒033-0111 青森県三沢市六川目六丁目28-6 (電話) 0176-59-3601

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年11月17日	評価確定日	平成22年2月12日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 人, 常勤換算 9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,300 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 780 円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1		要介護2	名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	86.5 歳	最低	79 歳
		最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三沢市立三沢病院、三沢聖心会病院、富田歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の玄関周辺には花が植えてあり、事業所内は利用者が作った作品が飾られている。また、利用者がくつろげる空間が点在し、思い思いの場所で過ごすことができる。同一敷地内には特別養護老人ホームやデイサービス、在宅介護支援センター等があり、地域住民にとっても福祉サービスの拠点になっていることから、現利用者も入居する前から同法人のサービスを利用している方が多いため、馴染みの関係がしやすい環境である。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった項目は、評価後に職員と話し合いを持ち、見直しをすることで改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス内容の確認や昨年度との比較、日々のケア全般について話しあい、職員全員で取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、事業所の実情報告や外部評価の結果報告をしている。問題提起があった事について意見交換をし、サービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	面会時などに積極的に家族と会話を持ち、苦情や要望を確認するようにしている。家族へは個人の写真を添付したホーム便りを発行するなど、遠方にいる家族にも安心していただけるように対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方が訪問に来てくれたり、併設の通所サービス利用時に遊びに来るなど、様々な形で交流がある。また、地域で開催される家庭介護教室においては、認知症に関しての講義をするなど、住民に対しても理解を深めていただけるよう啓発活動を行っている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の理念を、職員と利用者が共につくりあげ、掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員も参加して作られたため、内容の共有がされている。さらに、日々の取り組みに向けては理念の中から2ヶ月ごとに目標を抽出し、毎朝の申し送り時に読み上げ、意識づけをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	事業所のケアマネージャーは認知症介護の指導者であることから、地域の家庭介護教室で認知症に関する研修会講師として関わっている。また、利用者は、地域の学校から行事に誘われたり、事業所には地域の方が訪問してくれたり地域との交流が活発に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前年度との比較を会議で話し合い、職員全員で取り組んでいる。評価は日々のサービスを見直すきっかけとなっている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は3ヶ月に1回程度の開催になっているが、毎回市の担当職員にも参加していただいている。参加者間で意見交換や問題提起をもらい、その場で解決できることは解決している。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>今年度は、特にインフルエンザ対策などに関して市の担当職員と連携を図っている。必要に応じてその都度相談ができる体制があり、運営をしていく上での事業計画などについても助言をもらっている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者の中に制度を利用している方がおり、職員にとっては身近な制度で内容の理解もできている。さらに理解を深めるために、職員会議などで定期的に研修を行っている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年1回法人全体の内部研修で学び、理解を深めている。職員間においても、互いに虐待行為につながるようなことがないように注意を払っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は時間をかけてゆっくり説明し、理解をしていただいている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には日常の生活状況を説明し、その他、個別に写真付きのグループホーム便りを送付している。また、健康状態に関しては、病院受診後その都度結果を報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時には苦情や要望がないかを確認し、あった場合は法人の苦情処理委員会にも報告をしている。その他、運営推進会議にも家族が参加し、意見を出してもらえるように働きかけをしている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者だけでなく、職員側の影響も考慮し、離職以外の異動はしていない。新しく関わる職員は、他の職員のフォローを受けながらケアにあたり、利用者への影響が少なくなるよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各機関から研修案内がきた時は、職員に研修参加の打診をしている。外部研修後は事業所内での伝達研修をし、職員全体で知識や情報の共有をしている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症関連の研修では、実習受け入れ施設でもあるため、その都度互いに知識や技術の向上が出来ている。また、外部研修後の交流会などにも積極的に参加し、情報交換をしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の通所サービスを利用していた利用者が入居になるケースが多いため、職員も利用者の状態把握がしやすい環境にあり、スムーズにサービス利用の移行が出来ている。また、入居当初は安心して生活できる環境を整える為にマンツーマンでの対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に利用者から学ぶことは多く、その内容は、畑での野菜の栽培方法から調理方法、常識的なマナーまで幅広い。利用者に精神的な落ち込みがあった場合は、ゆっくり話を聞くなど共に支えあう関係ができていく。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用してアセスメントしている。本人や家族からはもちろんのこと、入居前に関わっていたケアマネージャーなどからも情報収集をし、できるだけ本人の意向に沿えるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月モニタリングをし、その内容は家族へも郵送している。家族から意見や要望が出ることもあり、本人や家族の意向を盛り込んで計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しをしており、サービス担当者会議録も家族へ郵送している。関係者の意見も確認しながら見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内に訪問看護ステーションがあり、医療面でのアドバイスももらっている。また、法人内の特別養護老人ホームの看護師からは緊急時の対応を手伝ってもらうなど、法人内での協力体制が確保されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族に受診の付き添いなどを手伝ってもらっている。事業所側でも、歯科や精神科などと協力体制を持ち、専門医にも柔軟に受診が出来るよう支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内には特別養護老人ホームもあることから、全利用者は特別養護老人ホームの申し込みをしている。家族へは、移乗動作が介助状態になった段階でその後の対応について相談することにしており、再度本人や家族の意向を確認している。その他医療面では、受診などで主治医からも説明を受けるなどしながら関係者が情報を共有し、方向性を確認している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や記録などはキャビネットで管理し、外部に漏れることがないように配慮している。また、利用者への声かけも互いに気をつけ、スタッフ会議では接遇面の見直しをしている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるものの、利用者の体調などを考慮し、個別ケアをする時間を柔軟に確保している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事作りや片付けなど、利用者にも手伝ってもらいながら行っている。食事には、事業所で栽培した食材も使用することで、利用者にはさらに楽しみになっている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週4回入浴できる準備をしており、利用者の希望に沿って週2回から4回まで自由に入浴ができる体制をとっている。入浴拒否があった場合は、時間や曜日を変えて声がけをしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事作りや洗濯たたみ、畑作業からゴミ捨てなど、個々の得意分野で役割を持って生活している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外出は自由であり、散歩や買い物支援を行っている。最近、インフルエンザの影響で、不特定多数の人が集まる場への外出は控えてもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしていない。内部・外部研修を積み重ねることで理解を深めている。利用者の身体状況によってはセンサーなどを使用することもあるが、身体拘束をせずにケアをするよう、職員間で協力しあい対応している。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、玄関だけでなく周囲にも鍵をかけることはなく、併設施設へも出入りが自由になっている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>併設施設と合同で夜間を想定した避難訓練を行い、事業所独自では年2回の避難訓練を行っている。近隣住民に対しても災害時の応援体制の依頼をしており、協力が得られている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事のメニューなどは、併設施設の栄養士にアドバイスをもらって作成している。毎回、食事量と水分摂取量の確認をしている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症対策の内部研修を行っている。マニュアルを作成し、職員が閲覧できるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関周辺には花を植え、事業所内は明るく、廊下の飾りもさりげなくある。共有スペースも3箇所に分かれていることもあり、利用者は個々に好きな場所でくつろいでいる。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベットと床頭台以外は使い慣れたものを持ってきていただき、自宅で使っていたものを引き続き使用してもらうことで安心感が持てるように工夫をしている。</p>		

 は、重点項目。